

そが 素鷲地区

人口: 18,623人(高齢化率29.8%)
世帯数: 11,511世帯

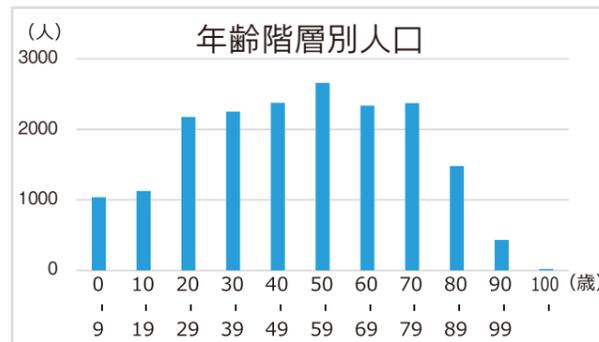


【地区の特色】

戦前は純農村地域であったが、近年市街地に隣接する地域として急激に住宅化が進み、通勤にも便利なためマンション等の建設も多く都市化が進んでいる。しかし、現在はそれ以上のドーナツ化現象のため、高齢化率も高くなり人口は横ばい状態となっている。そういう中であって、地域住民間の連帯感が薄れつつあり、近隣間のコミュニケーションがスムーズにいけない地域が増えるなど新たな問題が顕在化し、昔からの地域事情に若干の変化も見えてきている。



どろんこ運動会



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	地区の弱み	福祉課題
<ul style="list-style-type: none"> ・比較的便利で市内外へも行きやすい ・商店街がある ・高齢者の施設も多い ・市内の大きな病院を含め個人病院へも通いやすい ・公共交通の便がよく住みやすい ・教育関連機関や生活関連施設が多い ・若い世代の後継者が育っている ・まちづくり協議会や民生・児童委員、公民館関係者の連携がとれており、活動が活発 ・楽しい行事があり、地域住民が協力的(どろんこ運動会) ・登校時小中学生の見守り隊(保護者による旗当番)と地域の人による小中学生の見守り ・高齢者が気軽に相談できる窓口『そがのよりみち』(包括支援センターとの連携) ・公民館が改修され、エレベータや段差解消スロープの設置等バリアフリー化されたことにより、高齢者や車いすの方が利用しやすくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者世帯が多い ・高齢者世帯が多い ・空き家が増えている ・道路が狭く緊急車両が入れない ・マンション住民との交流が少ない ・仕事など忙しく地域の手伝い等してくれる人の人材不足 ・健康診断の受診率が低い ・各種団体の役員、代表者、お世話人さんの後継者のなり手が少ない ・子どもの数が減っている ・子ども会や町内会に入らない世帯が増えてきている ・一部、公民館や集会所がない町があり、集まれる場がない ・低所得者でも安心して入所できる高齢者施設が地区内にない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加(認知症や頼れる人がいないなどの課題) ・マンションが多く、把握と見守りがむずかしい ・空き家の増加(防犯・倒壊の危険) ・組織役員の後継者不足 ・子どもがいる世帯が増えない ・健康診断の受診率が低い ・防災訓練を行っているが、実際に支援の必要な世帯(高齢者・障がい者)の参加が少ない

素鷲地区社会福祉協議会

石手川 南に広がる そが福祉

<拠点> 松山市中村3丁目2-34(素鷲公民館内) TEL:089-931-2745

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・サロン代表者・高齢クラブ連合会 まちづくり協議会・自主防災連合会
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、7,400部をカラー版で作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
防災への取り組み	社協・民協・まち協・自主防災など地域内の各団体が日頃から連携し、定期的に防災についての会議や訓練を行っています。
健康についての取り組み	包括支援センターや各団体と連携し、健康増進・生活習慣病の予防のためセルフケア通信の発行や周知の協力、認知症についても認知症サポーター養成講座やチームオレンジの立ち上げに協力しています。

福祉講座(10月頃)

福祉課題の中でテーマを変えながら地域住民を対象に福祉講座を開催しています。毎年、分かりやすい内容を提供していることから多くの地域住民の参加があり、好評をいただいています。



<地区社協が目指すもの>

素鷲地区は、2万人近くの人口となり高齢者が多く、独居高齢者や生活保護受給者も多くいます。交通の便が良く買物や病院へ通いやすく、生活関連施設等も充実しています。毎年、拓南中学校にて松山市消防城東支署の協力を仰ぎながら生徒と一緒に炊き出し、AED体験、ドローンによる撮影、マップ作りなどの防災活動訓練を行っており、地区全体として防災関係に力を入れています。また、まちづくり協議会や他団体と連携しながら少しでもあたたかさを感じられる地域づくりを目指します。

地区の状況	令和2年度		令和2年度	
	■地区民協 民生委員 主任児童委員	49名 3名	■町内会・自治会・区長会等	44団体
■まち協の設立	令和2年度	■高齢クラブ	9クラブ	
		■子ども会	10団体	
		■自主防災組織	29組織	

かねてより独居高齢者が市内で多い地区ですが、近年は、新興住宅地の増加に伴いマンションが増えている地区です。そのため、民生委員・児童委員をはじめとする多様な福祉活動が求められます。また、地区防災活動訓練を中心として、中学校を拠点に地区住民参加による取り組みは、連携を促進する上で重要な活動であるといえます。この活動を軸としながら、地区社協構成団体が連携・協働し住民ニーズに基づく福祉講座の開催が行われています。今後は地域課題である独居高齢者対策として、集いや見守り活動など地域福祉活動の新たな取り組みが期待できる地域だといえるでしょう。



